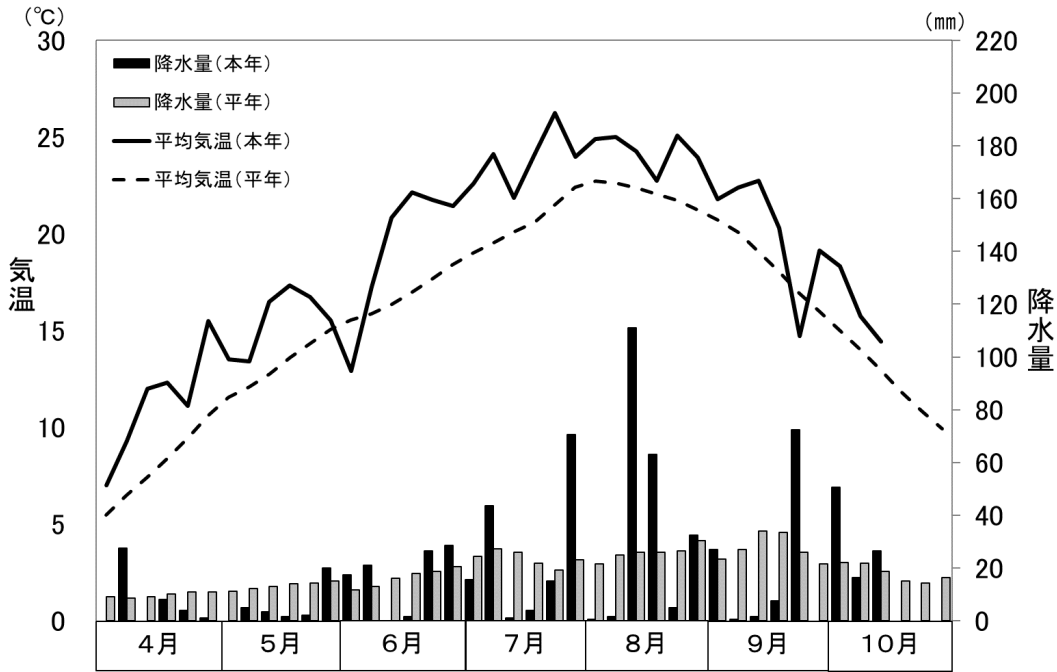


上北農業生産情報 第7号

令和6年10月21日
「攻めの農林水産業」推進上北地方本部

作業を終えた農業機械のメンテナンスを行い格納しましょう!!

気 象



半旬別平均気温・降水量の推移（十和田アメダス）

《9月》

- ・平均気温は、五半旬を除き平年を上回った。
- ・日照時間は、上旬は平年を大幅に上回り、中旬は平年を下回り下旬は平年並みだった。
- ・降水量は、上・中旬は平年を大幅に下回り、特に下旬は平年を大幅に上回った。

【9月の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間h		降水量mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	22.1	20.4	28.5	25.2	15.7	16.3	91.6	44.1	27.5	50.5
中旬	21.5	18.6	26.6	23.7	16.8	14.0	38.8	46.4	9.0	67.5
下旬	16.9	16.5	21.8	21.8	12.1	11.4	48.4	48.5	72.5	47.6

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

《10月上旬》

- ・平均気温は、平年を上回った。
- ・日照時間は、平年を下回った。
- ・降水量は、平年を上回った。

【10月上旬の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間h		降水量mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	17.0	14.5	21.5	20.0	13.3	9.3	31.7	47.0	67.0	43.8

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

東北地方 1か月予報(10月19日から11月18日までの天候見通し)

令和6年10月17日 仙台管区气象台発表

○東北太平洋側では、天気は 数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。平均気温は、高い確率70%です。

○降水量は多い確率50%、日照時間は少ない確率50%です。

水 稲

《作況・作業進捗状況》

- 1 東北農政局が10月11日に公表した9月25日現在の作柄概況は、青森県全体は、「103」の「やや良」、「南部・下北地帯」は「106」の「良」となっている。
- 2 管内の刈取最盛期（50%進ちよく）は平年より10日早い9月26日で、刈取終わり（95%進捗）は、平年より5日早い10月13日であった。

《今後1か月間の主な作業》

稲わらは、家畜の飼料や堆肥等に有効活用する。なお、秋にすき込む場合は、地温が低くなると腐熟が遅れるのでできるだけ早めに行う。

大 豆

《生育状況》

- 1 生育観測ほの成熟期は、平年より4日早い10月14日であった。

《今後1か月間の主な作業》

- 1 収穫が遅れるとしわ粒や紫斑病などの被害粒が増加し、収量や品質が低下するため、適期に収穫する。
※ コンバインによる収穫適期は、成熟期から数日間立毛状態のまま乾燥させ、茎水分50%以下、子実水分20%以下になった時期。
- 2 収穫作業は、朝露が乾いてから行う。
- 3 汚損粒発生を防止するため、以下の点に留意する。
ア 雑草や青立ち株は、茎汁による汚損の原因となるので、収穫前に必ず抜き取る。
イ コンバイン収穫では、土の引き込みによる汚損を避けるため、無理に地際部まで刈り取らない。

小 麦

《生育状況》

- 1 生育観測ほのは種は、平年より7日遅い10月6日である。
- 2 一般ほ場は、9月下旬からは種が始まり出芽揃いは良好。

《今後1か月間の主な作業》

- 1 地表面排水を促進するため明きよを設置する。
- 2 耐倒伏性の向上や凍霜害を防ぐため、生育の旺盛なほ場は11月中旬までにローラー等で麦踏みを行う。ただし、粘土質土壌や転作田などの排水の悪いほ場は、生育が阻害されるので行わない。
- 3 雪腐病の薬剤散布は、11月中旬から下旬を目安に行う。なお、散布後に一度積もった雪が溶けても再散布の必要はない。

ながいも

《生育状況》

- 1 生育観測ほの10月10日現在の新しいもの生育は、全重は平年を大幅に上回っている。全長は平年並み、いも径はやや下回っている。
- 2 葉渋病、炭そ病の発生により、一部落葉しているほ場が散見されるほか、ナガイモコガの食害が目立つほ場が見られる。

【生育観測ほの生育状況(種いも：1年子芽付き)】

調査地	年次	植付日 (月/日)	新しいも		
			全長 (cm)	全重 (g)	いも径 (mm)
東北町野田頭	本年	5/11	75.6	1,420	50.5
	平年	5/8	74.9	1,134	58.5
	前年	5/5	71.3	760	50.4

注) 平年値は平成26年～令和5年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 茎葉が完全に黄変し、試し掘りでアクが発生しないことを確認してから収穫する。
- 2 雨天など過湿なほ場条件での収穫作業は、貯蔵中の腐敗を招くので行わない。
- 3 ながいもネットは野焼きせず、JA等による回収処理又は直接産業廃棄物処理業者へ搬入する等適正に処理する。

にんにく

《生育状況》

- 1 秋雨前線の影響により植付作業はやや遅れ、管内の植付盛期は天候の回復した10月12～15日頃となった。
- 2 なお、植付けが早いほ場では、萌芽始め～本葉2～3枚程度となっている。

《今後1か月間の主な作業》

- 1 萌芽が揃ったら、芽出し作業を行う。
- 2 降雨時の排水対策として明きよの設置を行う。
- 3 種子生産ほ場では、感染源となる発病株の抜き取りを徹底する。
- 4 本葉3～4枚程度に達したほ場ではウィルスの秋期感染を防止する。黄変したながいも茎葉等からのアブラムシ類の飛翔盛期に当たる10月下旬から11月上旬を目安に殺虫剤を散布する。

露地ねぎ

《生育状況》

- 1 生育は、例年並の茎の太さを確保しており、概ね順調である。
- 2 病害虫は、斑点性病害及びネギアザミウマが発生している。

《今後1か月間の主な作業》

- 1 降雨に備えるため、明きよ等の排水対策を講じる。
- 2 葉鞘の軟白状況(軟白30cm以上)を確認し、適期収穫をする。

秋だいこん

《生育状況》

- 1 収穫期は、平年より6日早い10月7日であった。
- 2 収穫時の生育について、地上部（葉長、生葉数）は平年並み～下回った。
- 3 地下部は、根径が概ね平年並みとなったが、根長及び根重は平年を上回り、収量は8,527kg/10aであった。

【生育観測ほの10月7日現在の生育状況（品種：S-139）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	収穫期 (月/日)	葉長 (cm)	生葉数 (枚)	根長 (cm)	根重 (g)	根径 (cm)
東北町乙部	本年	8/8	10/7	45.2	20.4	38.9	1,159	6.9
	平年	8/6	10/13	46.2	22.0	33.6	1,031	7.1
	前年	8/8	10/10	47.9	22.9	37.4	1,107	7.5

注) 平年値は平成26年～令和5年の平均値

注) 令和4年に担当農家を変更したため、平年は参考値

《今後1か月間の主な作業》

- 1 収穫適期は品種や作型によって異なるが、秋だいこんは、は種後55～60日位が収穫の目安となる。
- 2 ほ場ごとに試し掘りを行い、1本当たり重量が1～1.2kgを目安に収穫する。

りんご

《生育状況》

- 1 生育観測ほの「ふじ」の10月11日現在における果実肥大（横径）は8.5cmで平年並となっている。
- 2 黒石市（りんご研究所）の10月11日現在における果実肥大（横径）は8.7cmで、平年比100%、前年比101%となっている。

【生育観測ほの生育状況（品種：ふじ）】

調査地	10月11日現在の果実肥大(横径)				
	本年(cm)	平年(cm)	平年比(%)	前年(cm)	前年比(%)
十和田市米田	8.5	8.5	100	9.0	94

注) 平年値は平成28年～令和5年の8か年平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 晩生種の収穫

ア 10月7日現在の黒石市（りんご研究所）のふじの熟度は、有袋、無袋ともに平年より3日ほど早く進んでおり、収穫始めは、平年より早くなることを見込まれるので、自園の果実の状況を確認し、早もぎせず、味をのせてから収穫する。

また、つる割れは、気象経過から多発する可能性は低いと予想されるが、肥大が平年を上回っている園地は注意する必要がある。加えて収穫が遅すぎると貯蔵中の内部褐変が心配されるので、11月15日頃までに収穫を終えるようにする。

イ ふじ以外の晩生種も適期収穫に努める。

2 風害防止対策

強風に備え、防風網の点検・補修など風害防止対策をしっかりと行う。

牧 草

《今後1か月間の主な作業》

堆肥や土壌改良資材を散布して土づくりに努める。

飼料用とうもろこし

《作柄状況》

生育観測ほの乾物収量は平年比125%の1,918kg/10a、TDN収量は平年比107%の1,221kg/10aであった。

【生育観測ほの作柄状況（品種：スノーデント110日）】

調査地	年次	刈取月日 (月/日)	熟 期	生草収量 (kg/10a)	乾物収量 (kg/10a)	TDN収量 (kg/10a)
東北町北栄	本年	9/10	糊熟後期	7,080	1,918	1,311
	平年	9/22	—	4,640	1,514	1,077
	前年	9/12	黄熟初期	4,854	1,537	1,221

注) 平年値は、平成30年～令和5年の平均値